



こうべ森の学校だより

No.85
2019年1・2月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

新年のご挨拶

こうべ森の学校

代表 藤原恒夫



明けましておめでとうございます。平成最後の年明けになりましたが、平成30年間の後半は『こうべ森の学校』の歴史でもあります。平成15年に立ち上げてから、去年は15周年を迎えました。記念にこの「森学だより」を創刊号から最近号まで一冊の本にまとめました。ログハウスの図書棚にありますので、一度手にしてはと思います。実に多くのボランティアがこの活動に携わってきたかが良く分かります。また、神戸市内の各図書館にも寄贈しましたので、こちらでも閲覧できます。ご近所の図書館でお待ちしておりますよ。

去年は7月の長雨があり、また秋には大きな台風が二度にわたり関西に来襲しました。六甲、再度山も多くの大木が倒れる被害がありました。その都度、広場やハイキング道の整備、倒木の処理等に多くの時間を費やしてきました。今年も、このような災害に見舞われるのでしょうか？ここ数年、日本の近辺で発生した台風は、巨大なまま上陸、迷走する傾向があります。

確たる因果関係は分かっていませんが、地球温暖化の影響は少なからずあるかと思われます。法律の世界では『疑わしきは罰せず！』とありますが、このような災害は『疑わしきは対策を！』です。ここ100年の間に地球平均気温は0.6度。日本は1度上昇したといわれております。化石燃料の影響は大きいです。体感では、この程度の温度上昇は気にならないですが、植物ではこの差で芽ぶいたり、花が咲いたり、紅葉になったりと著しい変化が見られます。地球全体で考えると、微妙なバランスの上に成り立っている環境の中では、一部の変化が思わぬところで大きな影響が出てくるようです。今年も、どこかで大きな自然災害は避けられないでしょう。このまま対策を取らなければ、更に地球規模の大災害が起こってしまいます。

地球温暖化は、体感ではなく、地球規模感覚での対策は待たなし。化石燃料から自然再生エネルギーへも待たなしです。

我々、森学の豊かな森づくり活動も、小さな力ではありますが、地球温暖化対策の一助になればと思います。新しい年号になっても、誇りを持って、こうべ森の学校をさらに地球環境を支えていきましょう。



11月10日 例会の集合写真

活動の安全を祈願

木下 英吉

1月8日(火)活動の安全をと、我々の活動場である再度公園の「山の神」に、参加者全員で祈願しました。

スタッフ間で、司会・進行と祝詔を執り行い、参加者全員で東北東を向き、敷地の四隅や付近の大木に清め塩と御神酒を撒き、改めて“安全”の二文字を胸に刻み、全員がこの一年安全に活動できることを願いました。



お供え物



東北東を向いて

再度公園で消防訓練を実施

木下 英吉



消火器を持って駆けつけ

2月5日(火)、整備事務所と合同で、初めての消防訓練を実施しました。炭焼き小屋奥の“ツリーハウス付近から出火した”との想定。

＜森学＞第一発見者から森学に通報 → 消火器とトランシーバーを携帯し、現場状況の確認 → 事務所に通報とトランシーバーを持込み＜事務所＞森学からの連絡を受け、各職員に周知 → 119番通報 → 消火器を持って、現場に急行 → 園内放送で、公園利用者に火災発生を知らせる → 出火場所に近づかないよう、付近の警備 → 駐車場入口付近で消防車を出迎える → 消防車を出火場所に誘導 → 消火の流れで行いました。

森学からは12名の参加者で、現場の状況を想定しながら、それぞれで消火器を持ち込む等の行動でした。

終了後、各自からは「消火の実践が必要」・「バケツリレーをしては!?」・「ハイカーを誘導する」・「現場に近づかないよう、テープで規制線を張る」等の意見が出ました。

今後、半年毎に実施予定で、今回の経験を活かしつつ、続けます。



消火しています



訓練を終えて意見を

山仕事プチ体験を共催しました

木下 英吉



参加者全員で

今年2月、伊藤ハム(株)を通じ“コープともしびボランティア振興財団(ボラ活動団体への助成・ボラに関する研修・振興を目的に設立)”から、市民を対象に森林保

全関連の体験型コラボイベントを共催できないか?との申し出がありました。森学として初めての事なので、趣旨・運営方法等何回か協議を重ね、当財団・森学・神戸市・伊藤ハムの4者共催で実施することになりました。

絶好の小春日和となった11月18日(日)、41名の参加者が再度公園を訪れました。活動の趣旨や安全作業の説明の後、午前中は全員が5班に分かれ、森に分け入りしました。ほとんどが初めての体験も、スタッフからの指導通り

の仕草で、終始声が途切れる事無く、楽しそうに作業されていました。午後は、森の手入れ(5)・木工(18)・自然観察(12)・墓地見学(6)コースに分かれ、それぞれで楽しまれたことが伝わりました。

参加者の方々からは、「森の手入れの、マンパワーの必要性がわかった。せっかく六甲山の近くに住んでいるのだから、また参加できたらいいな」、子ども達は「普段のこぎりを使うことがないので、ドキドキしたけど楽しかった」「木工でいろんなペンダントできて良かった」、午後森の手入れを行った夫婦は「コツがわかってきて結構楽しくなってきた」、「外国人墓地の説明がアカデミックで、大変興味深く聞かせてもらった」等の声が寄せられました。



楽しく手入れを

東お多福山の活動

佐脇 遥子

11月と12月に東お多福山草原保全・再生研究会のササ刈り活動を実施しました。

11/24 (土)



ススキの収穫

快晴。森学からは10名参加。今回は甲南女子大学の学生4名が参加して、心なしか華やいだ感じがしておりました。コドラート外の丈の高いススキを選択的に刈り取り、そのあと全面ササ刈りを行いました。11月ということもあり、寒さ対策をしっかりしていきましたが、実際は夏を思わせる日射しのおかげで暑いほどで、汗だくになりました。少々刈り残しはできましたが、作業は滞りなく進み、予定時刻(14:30)ごろに無事にお開きとなりました。

12/8 (土)

雨模様の週でしたが、この日は朝から快晴。前日から急に冷え込み、寒さ対策を万全にして参加(佐脇)。今回は茅葺き職人集団「くさかんむり」が参加。若い職人さんたちのにぎやかさにこちらまで元気をいただきました。ススキの刈り取りを行い、職人さんたちが束ねておられました。このまま山の上で乾燥させるそうです。まだまだ量は

少ないですが、このススキが茅葺き屋根の一部などに使われてちゃんと生かされると思うと、こちらまでうれしくなります。刈る前のススキがところどころにかたまっただけで揺れている景色もなかなか風情があつていいものでした。以前のササに埋もれた山の眺めからすると格段に差がついていると思います。

ススキ刈り取りのあと全面刈りにはいりましたが、風はちょっと強いものの陽射したっぷりで、気温の低さにもかかわらず寒さをほとんど感じることなく作業ができました。12月とは思えない快適な作業日でした。青い空に白い雲がたなびき、光る海と大阪のビル街やその向こうの山までくっきりと見え、本当に眺めのいい山になっているなあと実感できました。この日はハイキング客も多く、たくさんの方に愛されて



橋本先生のレクチャー

いるコースなんだなあと思います。たくさんの方にすばらしい眺めを共有してもらえるようにしたいと思うと、がんばりがいのある活動です。

今年の活動はこれでおしまいです。次回は来年3/23(土)です。多くの方の参加を願ってやみません。

神戸学院大学附属中学校の体験授業

木下 英吉



ログハウス前にて記念撮影

11月22日(木)、天候が心配されましたが朝には雨も上がり、今年も神戸学院大附属中学校から1年生71名(男子33名、女子38名)・引率教員5名が体験授業に訪れました。テーマ「神戸学」神戸を知ろうの一環で、森学は17名のスタッフ・森林整備事務所長で、森の手入れ・自然観察・外国人墓地見学を6班編成で、午前・午後を3班ずつで入替わり、全員が体験できる内容で臨みました。全体スケジュール説明→スタッフ紹介→緑化の歴史や活動の説明→作業内容や安全の説明→体操→記念撮影後、それぞれのコースへ出発です。

森の手入れは、駐車場東側他に分け入り、足元が悪い状況も、照葉樹を中心に真剣な面持ちで伐倒→枝払い→玉切り→集積と一連の作業を試みました。普段、鋏や鋸をあまり手にしないのに、使い方を教わると呑み込みが早く、楽しそうに「もう1本切ってもいいですか?」と、もう次に目をやる一コマも。

自然観察は、再度山植樹の歴史や修法ヶ原池周りを散策しながら、森の手入れ済み・未済場所の違い、木や植物の特徴を伝え、分かり易い説明に聞き入っていました。

外国人墓地見学は、整備事務所長に終日案内・説明を担っていただき、旧居留地から移転の歴史、ユダヤ・イスラムと異教の墓が近接で建てられているのは珍し



外国人墓地見学

い等、特長のある内容を説明。「へー!!」というような面持ちで聞いていた生徒も、洋菓子メーカー名にも由来しているお墓では、「ウンウン!!」と、うなずき反応。

終了後、各班からは「木を切る意味や大切さがわかった」・「普段あまり経験できない作業が体験できて良かった」・「初めて墓地を見学して、歴史・内容が理解できた」等の感想が寄せられました。全員、無事体験授業を終了し、徒歩で新神戸駅方面へと帰途につきました。素晴らしい環境の中で自然に触れ、それぞれが「何か」を感じ取ったことでしょう!! 参加スタッフも1日共に過ごし、若さと元気をいただきました。

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
12月16日(日)	68名	小林さん	11名	35名	3名	4名
1月12日(土)	57名	中里さん	10名	18名	8名	10名

豚汁の提供

12月16日(日)の例会日は豚汁の提供がありました。寒さが堪えるこの季節、とてもありがたいです。炊事当番のみなさん、ありがとうございました。



再度公園が雪化粧しました

1月29日(火)の活動日はログハウス前や修法ヶ原周辺がうっすら雪化粧。寒さに震えながらも大師堂周辺の手入れと炭焼き小屋の屋根の吹き替えをしました。



お知らせ・掲示板

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回の開催予定日は3月24日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次回の開催予定日については、神戸市森林整備事務所にお問い合わせください。

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 3月9日(土)・4月21日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記 近年は地震、高温、大雨、大雪、乾燥等々異常な気象現象が発生しています。昨年の夏から秋にかけては強い台風が続いて襲来し、各地で森林の被害が多発、ここ再度周辺でもなぎ倒された大木があちこちで見られました。私たちは散策道周辺をふさぐ倒木の処理に当たりましたが、私たちが入りにくい崖や急坂地の森には、凄い数の倒木があります。これが自然というものでしょうか。「こうべ森の学校」が始まって15年余、台風の通

過後に散った枝や葉を片づける位で、これまで六甲の山々は穏やかな環境が続いたのかも知れません。これが毎年の様に荒々しい気象現象が繰り返される様になってくれば、長期的に見て植生も変わっていくのでは、とさえ考えてしまいます。大自然には逆らえないとは知りながら、「今年こそは穏やかな歳に」、と願いつつ人々の暮らしが続くのですね。言い古された言葉ですが、「平成時代最後」の春の訪れです。
(林)